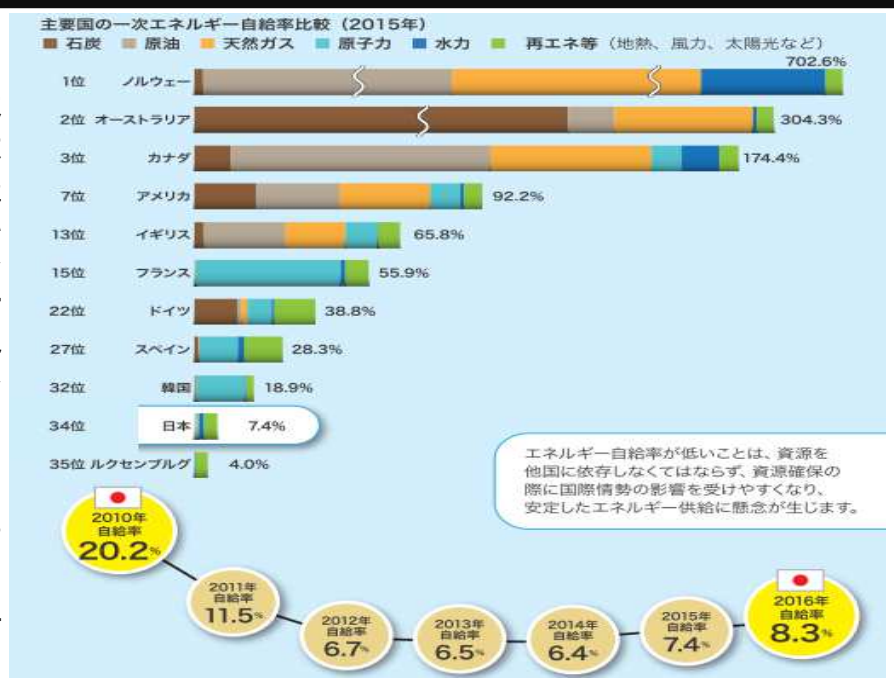
米良新聞
117

国内のエネルギー危機問題

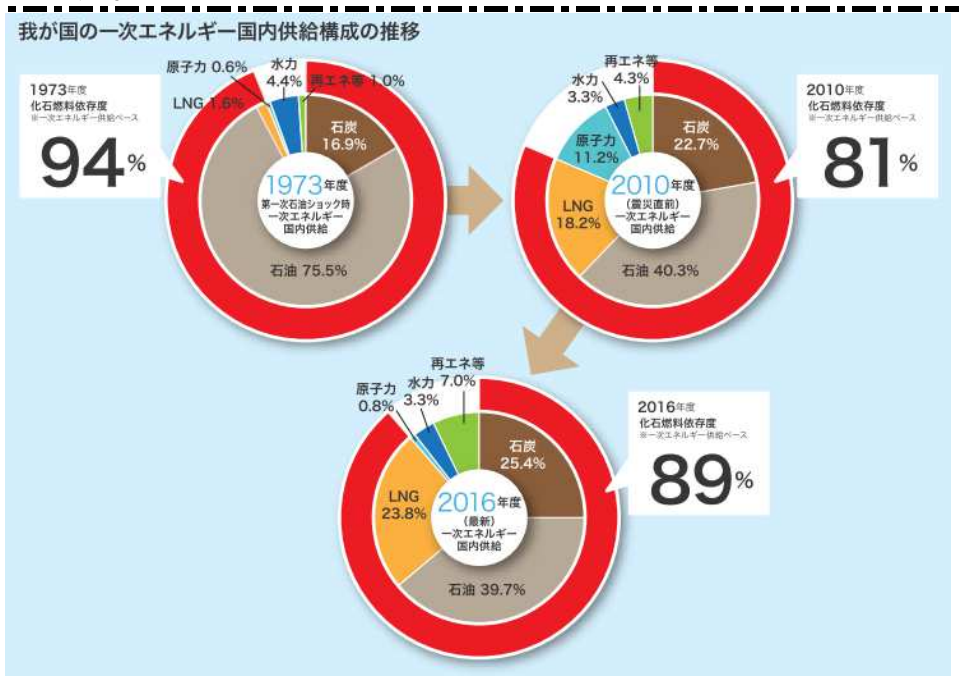
当り前が当り前でない電気の姿は？

日本は豊かで世界でもトップを行くような国だと誰もが疑う事はないでしょう。しかし、エネルギー事情に関してはまいちがいることが分かります。海外に依存している海外からの輸入がなくなった場合は、国内のエネルギー供給はストップしてしまうどころか、経済や我々の生活までも数日で麻痺してしまうことでしょう。

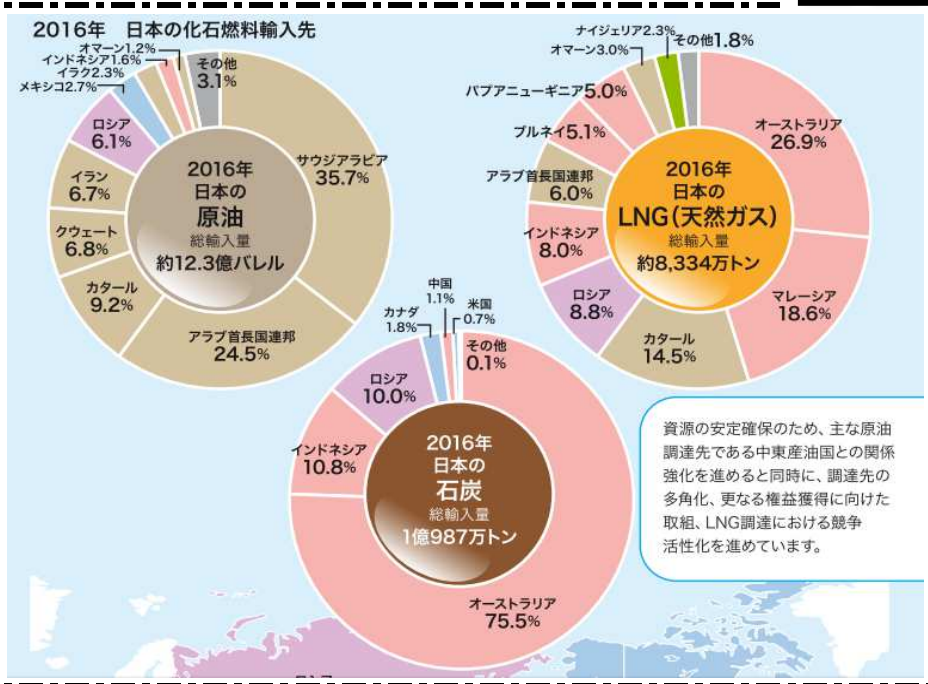


梅雨が明けると暑い夏が待っていますね。その時エアコンは欠かせないのですが、国内の電気事情は深刻です。国際社会の中で経済国家と位置づいている日本。しかしその陰で大きく後進国となっていることがあります。本号ではその問題について検証していきましょう。

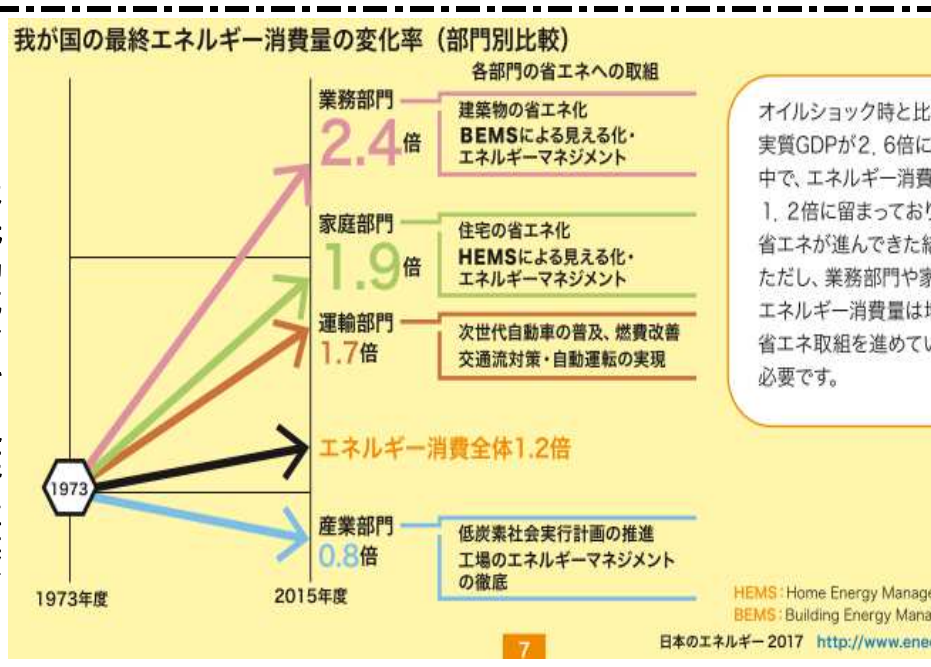
現状だ」という表を掲載しました。ご覧になった方から「衝撃的だった」との話を伺いました。左図はその表の最新版です。これが日本の１１６号の最後に「



次の表は２０１１年震災以降、化石燃料の依存度を表しています。オイルショックの時と同じように戻っていることが分かります。

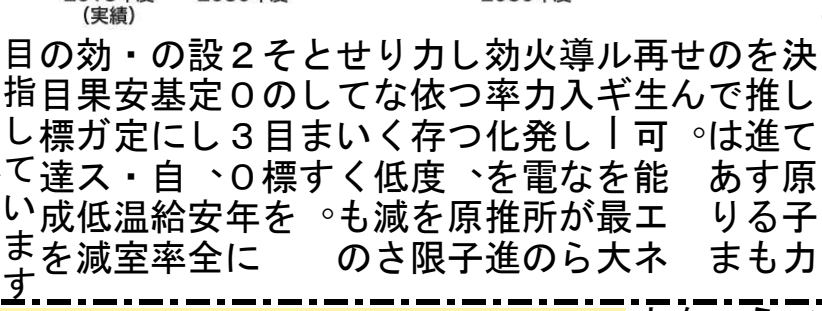


エネルギーの９１%は輸入に頼っている現状を見てみましょう。



本紙掲載資料＝経済産業省より

次に日本が目標とする将来のエネルギーの構成をみてみましょう。



これらの話は国家レベルでできることではありません。

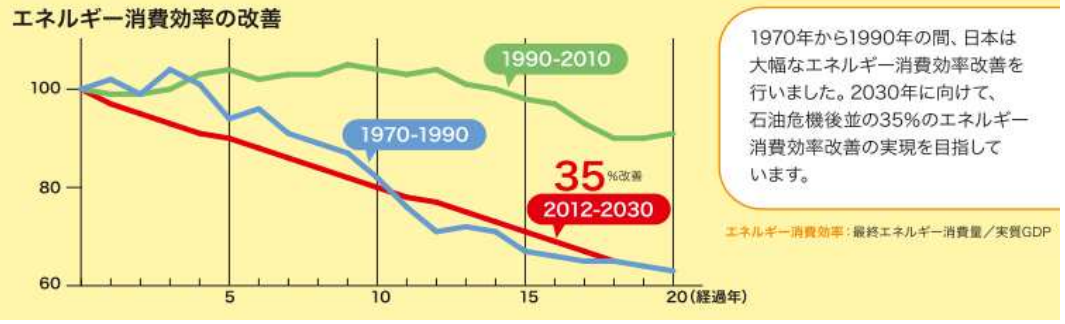
そのためには２０３０年を目標に安全に火力発電所を最大限に抑えながら、再生可能エネルギーを最大限導入し、効率化を推進しつつ、原子力依存度を低減させるとともに、設備の安定稼働を推進するものです。

また、２０３０年の目標達成に向けて、自給率向上や温室効果ガス・低炭素社会実行計画の推進、工場のエネルギーマネジメントの徹底など部門別に消費量の変化率を細かく見てみましょう。

大きなエネルギーを供給しているところはオフィスと住宅といった事になります。

こうした事を踏まえて大きく省エネ化を測っていくことが私たちのできる大きな役目となりそうです。

産業部分が低下傾向にあることは驚きます。



省エネ機器として導入されている主な商品群			
オフィス	パソコン	LED照明器具	太陽光発電
	コピー機	空調機器	オール電化
	自動車	業務用冷蔵庫	エコキュート
住宅	液晶テレビ	LED照明器具	太陽光
	洗濯機	エアコン	蓄電池
	トイレ便座	冷蔵庫	オール電化

などなど

私達はがでしょうか。

世の中に貢献できることとして大きく

平成３０年６月３０日（水）鹿児島建設新聞に弊社企業社員が掲載されましたのでご紹介いたします。

家電部　伊豆元　政吾